

総合的な探究の時間の第 1 の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。
- (2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う

学校の教育目標

高い志を持ち、優れた資質と豊かな人間性を備え、社会の発展に貢献する人材を育成する。

何ができるようになるか

○各学校で定める目標と育成する資質・能力

探究の見方・考え方を働かせ、自分自身と地域や世界、社会に関わる総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、主体的、協働的な活動を通してよりよく課題の発見と解決ができるようにするために、以下の資質・能力を育成する。

- (1) 自分自身と地域や世界、社会に関わる探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、自己の適性や地域・世界の特徴に気づき、それらが自己を含めた人々の関わりによって成り立っていることを理解する。
- (2) 地域や世界、社会と自己との関わりから問いを見だし、その解決に向けて、仮説を立てて情報を集め、それを整理・分析する力を身に付けるとともに、まとめ・表現し発表する力を身に付ける。
- (3) 自分自身や地域や世界、社会についての探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、キャリア発達に取り組み、社会に貢献しようとする態度を育てる。

何が身に付いたか

○総合的な探究の時間の学習評価

1 年次
ワークシートの記述、レポートやポスターの内容、口頭発表・ポスター発表等の表現を対象に、ルーブリックを用いて各評価の観点の到達度を測る。各活動における自己評価や活動記録を基に各評価の観点の到達度を測る。

2 年次 （普通科）
ワークシートの記述やレポートの内容、口頭発表等の表現を対象に、ルーブリックを用いて各評価の観点の到達度を測る。各活動における自己評価や活動記録及び各活動の観察記録を基に各評価の観点の到達度を測る。

（サイエンス科は学校設定科目「白堊研究Ⅱ」で代替）

3 年次 （1 年次学校設定科目「白堊研究Ⅰ」で代替）

生徒の実態

- ・素直であるが、主体的に課題解決するところに課題がある。
- ・見通しをもって計画を立て、実行するところに課題がある。
- ・生活体験が少ないため、体験する機会を意図的に設定する必要がある。
- ・他人とのかかわり方に課題がある。

生徒の発達をどのように支援するか

○配慮を必要とする子供への指導

目指す生徒の姿

- 1 自ら課題を発見し、主体的に「やり抜く」ことのできる生徒
- 2 物事を理性的に判断し、筋道を立てて議論できる生徒
- 3 高いモラルと豊かな感性を持ち、リーダーシップを発揮できる生徒
- 4 運動の楽しさや喜びを知り、自ら健康を管理できる生徒

何を学ぶか

○各学校が定める内容（目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力

1 年次

キャリア探究① 学問及び職業の選択

- (1) 学問にはそれぞれ特徴があり相互に関連し、学問と職業は関連性があること
- (2) 学問と職業について収集した情報を整理・分析し、意図に応じて的確に表現する
- (3) 自己を見つめ、自分の個性や特徴に向き合おうとする

キャリア探究② グローバル人材の在り方と価値

- (1) 文化の多様性を受け入れつつ、様々な立場の人が支え合い協力し合っていること
- (2) 情報を収集・整理・分析する過程で考えを深め、目的に応じて的確に表現する
- (3) 自己の在り方生き方を考えながら、社会に参画・貢献しようとする

探究スキル

- (1) 探究に必要な基礎スキルを理解し、その技能を身に付ける
- (2) 情報を整理・分析する過程で自他の考え方の共通点・相違点に気づき深める
- (3) 進んで解決に向けて課題に向き合うとともに、協働して取り組もうとする

2 年次 （普通科）

キャリア探究③ 学問と自己実現

- (1) 自分の個性や特徴を基に、多様な情報を選択し、自己の良さを生かすこと
 - (2) 情報を収集・整理・分析する過程で考えを深め、学習や生活に生かそうとする
 - (3) 自分の意思で真摯に課題に向き合い、解決に向けて取り組もうとする
- 台湾の地域探究 風土及び伝統文化とそれに取り組む人々
- (1) 台湾には独自の風土、文化、歴史があり、それを大切に生活していること
 - (2) 目的に応じて手段を選択し情報を収集し、視点を定めて多様な情報を分析する
 - (3) 自他の良さを認め特徴を生かしながら、協働して解決に向けた探究に取り組む

（サイエンス科は学校設定科目「白堊研究Ⅱ」で代替）

3 年次 （1 年次学校設定科目「白堊研究Ⅰ」で代替）

どのように学ぶか

○学習活動、指導方法等

1 年次

探究スキルに関しては、学校自作のテキストを用いて、4 人程度のグループワークを基本とし、探究の基本スキルを学べるように進める。キャリア探究では、個人及びグループによる調査やインタビューなどを行い、まとめ、最後に発表をする。

2 年次 （普通科）

キャリア探究では、ワークシートを中心に授業を進め、個人で主体的な探究活動を行う。台湾の地域探究では、興味関心が共通する数人でグループを形成し、グループごとに事前調査及び現地でのフィールドワークを行い、報告会で発表する。教員は個人及びグループの活動を巡回しつつ指導、助言に当たる。

（サイエンス科は学校設定科目「白堊研究Ⅱ」で代替）

3 年次 （1 年次学校設定科目「白堊研究Ⅰ」で代替）

実施するために何が必要か ○指導体制（環境整備、家庭・地域との連携）

総合的な探究の時間推進委員会の設置

（教頭、1 年次、2 年次、SSH 部、進路、教務（教務部の中に総合的な探究の時間係を置き、中心となる））

2 年間の総合的な探究の時間の計画立案を行う。

授業担当者への伝達、授業後の担当者からの報告は教務の係が各年次の係と連携して行う。

外部の機関・講師との連絡は、各年次の係が教務の係と連携して行う。